



▲クリンクルセンターで、空き缶の分別作業を見学する子どもたち

登別市の観光行政を学びます ～自治体職員協力交流事業～

6月29日(金)、『自治体職員協力交流事業』の協力交流研修員として、中華人民共和国から張紅莉さん(25歳)が赴任し、委嘱状が交付されました。



北京市内のホテルに勤務する張さんは、登別市では主に観光行政について11月まで研修します。「登別は日本でも有名な観光地と聞いています。中国にもたくさん日本の方が来ますので、登別の観光について一生懸命学びたいです」と、流ちょうな日本語で意欲を話してくれました。

利用しやすいプールとは

～新市民プール検討委員会～

7月16日(月)、市民会館で『新市民プール検討委員会』が開催されました。この検討委員会は、教育委員会が新プールの建設に向けて、広く市民の方の意見を参考にするため開催したもので、登別水泳協会などの団体代表者やプールの利用者など19人で構成されています。

この日は、「水中ウォーキング用のコースを設けて」「障害者専用の更衣室を」「子どもや高齢者のため水深や水温に配慮を」など、出席者からさまざまな意見が出されました。

今後この検討委員会は、11月までに建設場所や規模、施設機能などの検討を進める予定です。



7月7日(土)、クリンクルセンターで『第10回鬼つ子サミット』が開催され、市内の小学校から71人と白老町の小学校から8人の児童が参加しました。

今年のテーマは『ごみとリサイクル』。講義『ごみとリサイクル』では、講師の山本憲哉さん(EGGネット会員)から、環境にやさしい商品の選び方やごみを減らす方法などの説明ほか、肥料として人間のふんに値段がついていたといった江戸時代の暮らしに見られるリサイクルについての紹介もあり、子どもたちは熱心に耳を傾けていました。

講義の後には、同センターの施設見学と牛乳パックなどを利用したハガキづくりの体験学習が行われました。

施設見学では、燃えるごみに混ざって排出された空き缶などの分別作業を目にした子どもたちから「ちゃんと分別しないと、焼却炉が傷んじゃう」「缶は忘れずにゆすぐ。作業する人にはおいで大変」といった



感想も聞かれ、ごみ排出のマナーの大切さを、しっかりと学んでいました。

◀牛乳パックなどを利用したハガキづくり体験学習

が僕らの環境は、僕らが守る

第10回鬼つ子サミット

マップ片手に景観スポットを満喫 ～おにたま散策会～

7月1日(日)、鬼のたまご協議会主催による『おにたま散策会』が市内の2地区で行われました。

この散策会は、登別の豊かな自然や素晴らしい景観などを紹介するため、市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会がこの春発行した『のぼりべつ自然景観マップ』を活用し、ふるさとの名所再発見の散策会として開催されました。

この日は、鷺別と幌別の両コースに合わせて37人の市民が参加。晴天のもと景色とマップを交互に見ながら散策を楽しみました。

幌別コースに小学2年生の息子さんと親子で参加した坂井久美子さん(登別温泉町)は、「素晴らしい景色がたくさんありますね。鳥のさえずり、緑のにおい、花の甘い香りを満喫しています」と話しながら散策を楽しんでいました。

